

2020夏季手当交渉 要求書提出・趣旨説明を行う

本部は、5月18日、2020夏季手当交渉 要求書提出・趣旨説明を行いました。
以下、報告します。

基準内賃金×2,3ヶ月以上を要求する

要求書提出については、2020春闘時に期末手当年間4,9ヶ月以上
(夏季2,3ヶ月以上・年末2,6ヶ月以上)の支給を求めている。

「趣旨説明」

昨年度は、2018年度同様、自然災害（台風19号被害等）が多く発生し、今年に入ってから新型コロナウイルス感染症拡大もあり、貨物会社も多大な影響を受けているが、2020年3月期決算・連結営業収益は1989億円を計上し、2019年度3月期連結営業収益1916億円から72億円増収となり、連結経常利益では、昨年度の45億円から44億増の89億円を確保し、新型コロナウイルス感染症拡大の影響がどこまで続くか全く不透明である中においても堅調に推移している。会社は、この結果を生み出したのは、紛れもなく組合員の頑張りであることを強く認識しなければならない。

このような結果にもかかわらず、会社は「鉄道事業の営業収益がマイナスであり、

本業である鉄道事業を安定的に黒字化したい」としきりに言うが、会社の成績は、全ての事業を合わせた結果を見るべきであり、もはや「言い訳」にしか聞こえてこず、これを理由に組合員の気持ちを踏みにじるような姿勢を決して見せてはいけない。

組合員は日々、新型コロナウイルス感染という恐怖と闘いながら、国からの指定公共機関の責務として安全安定輸送に努めており、また、多くの自然災害や新型コロナウイルス感染症拡大の影響にもかかわらず、経常利益黒字を計上した会社に誇りを抱いている。労働条件（最たる賃金面）に対しても、誇りを持てる数字を示して頂き、この先、労働人口減少に伴い、労働者の奪い合いが起きると予想される中、JR貨物には常に優秀な人材が確保出来る足がかりを作っておかなければならない。また、グループ会社においても同様なことが言え、労働条件を改善し労働者確保に努め、そのためにも先ずは私達本体が労働条件を底上げし、それをグループ会社にも波及し、JR貨物グループ全体の士気を向上させ、発展に繋げていくことが必要である。

2020春闘では、大幅な労働条件改善には至らない結果となり、昨年4月から導入された新しい人事制度においても、評価制度導入等で将来に不安を覚える者は少なくない。世間では、多くの商品が値上げをし、子供にかかる学費や塾費等は、年々増加しており、期末手当はもはや嗜好費でなく生活費の一部となっている。新型コロナウイルス感染症拡大の影響がどこまで続くのか先行きが全く見えない状況下で、期末手当の動向については関心が高く、結果次第では組合員のモチベーションは一気に落ち、よって会社全体の士気も一気に下がる。

昨年4月、新たにJR貨物グループ「中期経営計画2023」が発信され、目標達成のためには、組合員の頑張りが不可欠であることを会社は忘れてはならない。会社と労働者は一緒の船に乗っており、どちらかが傾けば船は沈没してしまう。先行きが見えない新型コロナウイルスとの闘いに労使が互いにタッグを組み、この難局を打破していくためにも、対価（期末手当）として希望の持てる数値を示して頂きたい。

最後に、我が組織は新型コロナウイルスに伴う支援策を、JR連合国会議員懇にも繋ぎ、会社の経営を常に考えている。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で2021年3月期業績見通し算定が困難であることや、新年度に入ってから経営状況が厳しいのは理解するが、私達の主張に応えられる体力は十分にあると認識する。

私達の主張を理解して頂き、満額回答を強く求める。

会社・まずは新型コロナウイルスの影響下における業務遂行に感謝したい。J R貨物は指定公共機関として、グループ会社一丸となって、物流の大動脈を担う役割を果たしている。現場では、リスクが高い中、貨物列車を運行させている。これまで本体で感染者は出ていない。社員一人ひとりが使命感、責任感を持って極めて自制した行動をとっていることの結果であり深く感謝申し上げる。J R旅客会社や航空業界などの運輸系は、乗車人員が対前年ひとケタという状況である。J R貨物は現在のところそこまでではないものの、大きな影響、経済の低迷が長期化することは間違いない。現場に安心して業務を遂行してもらうため、特にマスク消毒液の調達など必要なことはストレスのないように手配していく。列車の運行などは状況を見て適宜判断していく必要があり、長期的に見ればアフターコロナで、働き方、経済状況、経済構造など、色々大きく変わり、J R貨物としては今後も厳しい状況となる。現状を打開するには**労使で取り組んでいく**ことが不可欠であり、改めて真摯に交渉していきたい。

組合・2020年3月期決算成績を見れば期待は膨らむ。この難局を打破していくためにも、組合員のモチベーションを下げない数値を示して頂きたい。

以上
